

立教189年  
活動方針

# 全ようぼくおぢばがえり

〜網走に繋がるようぼく〜

810名のおぢばがえり〜

## 立教189年1月26日 教祖140年祭 厳かに執行

網走大教会に繋がる道の子一同

三年千日の

歩み・実働・成果

を笑顔でご報告!



立教189年

網走大教会活動目標

全ようぼくおぢばがえり

〜網走に繋がるようぼく810名のおぢばがえり〜



大教会のHPがご覧になれます!

月報には掲載されない写真もいっぱいです!

ぜひ一度ご覧下さい!



発行所  
天理教網走大教会  
布教部出版広報掛  
〒093-0073  
網走市北3条西6丁目  
TEL 0152-43-2227  
FAX 0152-44-2227

### 大教会 春季大祭

大教会1月の春季大祭は、12日午前9時30分から大教会長祭主のもと、執行された。

大教会長は祭文で、親神様の御守護に御礼申し上げた後、「今月の二十六日には、いよいよ教祖百四十年祭を迎えさせて頂きます。大教会に繋がる部内教会長が甘露台に馳せ参じ、年祭活動の御礼づとめをさせて頂くと共に、教祖殿にて喜び一杯の心で御礼参拝



神 殿 講 話 全 文

#### 神殿講話

#### 大 教 会 長

昨年(2025)は年祭活動3年目仕上げの年にあたり、お道の上にもまた大教会の上に、様々な形で精一杯、力一杯の大きなご尽力を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

昨年一年は論達の実働10万件と大教会活動目標を掲げ、網走大教会に繋がる部内教会長さんが先頭に立ち、ようぼく・信者の皆様が一丸となり、心定めの10万件を目指し勇んで勤めて参りました。この活動も昨日の11日をもって終わりましたが、その結果なんと10万件をはるかに超え30万件近くにまで到達させて頂きました。三年間人の御守護に力を入れるなか、仕上げの年の昨年この伏せ込みが理づくり

となり、心定め達成とはいきませんでしたが、初席者26名、ようぼく13名、修養科修了者21名、教人4名の人の御守護を頂戴しました。修養科修了者に関しては、心定め18名を3名超える21名の大きな大きな御守護を親神様より頂戴することができました。これもひとえに親神様、おやさまの導きはもとより、役員会、准役員会を中心に部内教会長の皆様の度重なる声かけと、我が事を後回しに丹精に精一杯力を入れて下さったお陰であります。また、丹精により一層力を入れて下さった教会の中には、更なる人の御守護を頂かれた所も多々ありました。昨年一年、本当にご苦労様でした。

さていよいよ年が明け、1月26日に教祖140年祭を迎えることとなりましたが、おやさまがお姿をお隠しになられた当時は少し振り返りたいと思います。今より140年前の1月1日、陰曆にすると12月8日、おやさまが風呂場から出られた時、ふとよろめかれ、その時

に「これは、世界の動くしるしや」と仰せられました。そして1月4日にはおやさまの身上が急に迫って来て、冷たくなってしまわれました。そこにいた一同は、当時の警察が圧迫していたとはいえず、以前より何度もお急ぎ込みなっていたおつとめをしていなかったのが原因だと気づき、5日より警官に見つからないよう夜中ひそかに、連日毎夜おつとめを勤めたのでした。そのためかおやさまの身上は少し持ち直されました。

そしてその場に居た先生達は8日夜に相談を始め、この時は9日の朝5時まで徹夜でねりあいをされました。その後おやさまの身上を通して、何度もねりあいを朝方までされましたがとにかく親神様はおつとめをするようにと厳しく迫られます。おつとめをすれば、警察がおやさまを拘留してしまふ。周りの先生方はこのような状態で、おやさまが警察に拘留されれば、間違いなく命を失ってしまうと思われていたのではないのでしょうか。こういう状況でありますので親神様が求める姿のおつ

とめはなかなか出来ずにいました。

そしてこのようなことを繰り返して、1月26日よいよおやさまの身上が大変厳しい状況になったとき、初代真柱様の眞之亮様から警察に連れられることになるところから、命捨ててもという心の者のみおつとめをするようにと言われ渡されました。それから覚悟を決めた先生方は昼の1時頃から鳴り物を入れて堂々とおつとめをされました。この日参拝人は数千人になり、信者が次々と数を増し竹で造られた境界は、粉々になったとのことです。不思議にもこのような状況であったのに警官は一人も来ないという驚くべき奇跡が起こりました。

おつとめを終えた先生達はこれでおやさまは必ず元気になられると思ひ、意気揚々と引き揚げてきましたが、それに反しおやさまは午後2時頃、眠るが如くお姿を隠されました。御年90歳であります。当時おそばに仕えていた先生方を始めその場に居合わせた信者一同は、大地が砕け、太陽や月の光もなくなりこの

世が真っ暗になったように感じたそうです。

しかし親神様のお言葉を聞き次いで下さっておられた飯降伊蔵先生を通して神様の思いを聞かせて頂いた一同は、おやさまは死んだのではなく、何十年何百年経つても、未来永劫存命のままおぢばの教祖殿に留まり、そこを拠点に世界たすけに奔走して下さい、我々が心の成人をするように見守りお導き下さっていると

いうことを知りました。そしてお仕えしていた先生方や信者一同はお姿を隠されてから、より一層人たすけに励まれ、その度に奇跡的な不思議なすかりがあらちこちらで起こり、おやさまは姿を隠されただけで今も間違いなく御存命でお働き下されいるんだと確信し、勇みに勇んでおたすけに廻られた結果、現在世界中に一万四千方以上の天理教の教会が設立され、おやさまがおたすけに来て下さるたすけの場という姿になつておるのです。おやさまがお姿を隠されてから140年後の現在は、どこもおつとめをしていても警察に

捕まることはありません。命を懸けておつとめをするという状況にもありません。こんなに有難いことはないのです。

今月の26日に参拝される部内教会長さん方を始め信者の皆様には教祖伝の第10章をせめて一度は拝読しておやさま40年祭を参拝して頂きたいのであります。また当日おぢばに参拝できない信者さん方は、土地とこの各教会より、やはり教祖伝第10章を拝読して遥拝をさせて頂きましょう。

さて世の中の状況といえ、身近な所では、一昨年の8月頃より令和の米騒動が始まり、いまだに米が高値であったり、全体として物価高で苦しんでおられる方々も大勢おられます。世界に目を向ければ、日本も含めこれまでに経験したことのないような気候変動や、あちらこちらで命を奪い合う紛争が起こり、論議第4号にある「世の中には、他者への思いやりを欠いた自己主張や、利那的行動(一時的、今さえよくば)があふれ、人々は、己が力を過信し、我が身思案

に流れ、心の闇路にさまよっている。」とお示し下さるように、大変深刻な状況になっています。

やはりこういう苦しい時、大変な時だからこそ、世界中の人々のふるさとであるおぢば、すべての人間の親がおられるおやさまとおぢばへ帰ることが大切になります。おぢばがえりに関して当時おやさまのもとへ運ばれていた先生方の事を振り返りたいと思います。増井りん先生は1月におぢば帰りをされました。その日は朝から大雪で吹雪いていたそうです。そして道中に幅が90cm位しかない、欄干のない橋までやってきました。

90cmといえ、皆さんが今座っている畳の縦の寸法になります。そんな幅しかない橋です。危ないと思ひ、裸足になり這って進みました。橋の中間まで来た時に吹雪が一時ドツと来て何度も川に落ちそうになりましたが、その度に蟻のように這いつくばり、「なむてんりわうのみこと」なむてんりわうのみことと唱えて、夕方命がけの

思いでおぢばまで帰ってききました。その間、おやさまは窓の外遠くを眺められ、「まあまあ、こんな日にも人が来る。なんと誠の人やなあ。ああ、難儀やろうな。」と仰られていたそうです。

そしておやさまは凍えて自由を失ってしまった手を温かい手で握られ「ようこそ帰って来たなあ。親神が手を引いて連れて帰ったのやで。あちらにもこちらにも滑って、難儀やつたなあ。その中にて喜んでいたなあ。さあさあ親神が十分受け取るで。どんな事も皆受け取る。守護するで。楽しい、楽しい、楽しい。」と仰られました。

りん先生はちょうど、火鉢の上に手をあてたような温かみを感じ、胸が一杯になったそうです。

また河内の国(現在の大阪周辺) 山田長造先生は数年間床に伏していましたが、おやさまの存在を知り病床の中で湯呑に水を入れ、一心に念じて飲むと気分がよくなり、続けるうちに数日で起きられるようになりました。この不思議なことに感激し

た長造先生は、おやさまに御礼申し上げたいと2本の松葉杖をつきながら50kmはあるであろう道のりを出発しました。ところが4km程歩くと杖は1本で歩けるようになり、更におぢばへ近づくと残りの1本もいらぬようになりました。

そして、途中まで付いてきてくれた弟をかえして、一人でおぢばに着くと、お屋敷にいた先生があんたは、河内から来たのやろ。おやさまが朝から「今日は、河内から訪ねて来る人があるで」と仰られていたが、あんたのことやなあと話されたそうです。長造先生は本当に生神様がおられる所なんだと感激されました。その後1週間おぢばに滞在しすつきり御守護を頂き、元気に河内へ帰っていかれました。

更に、立花善吉先生は大阪から50km近くある道のりを歩いて帰ってきました。おぢばが近づくと元気が出てきて、歩きながら得意の浄瑠璃(日本の伝統的な音楽)を歌いながら歩いていましたが、おぢばに近づくとその歌もやめて間もなく到着しまし

た。そしておやさまへ挨拶に伺うと「善吉さん、良い声やっとな。おまえさんが帰って来るので、ちゃんとお茶が沸かしてあるで。」と仰せになりました。立花先生はおやさまは見抜き見通しで鳥肌がたと共に有難いやら嬉しいやらで感激し言葉も出なかつたそうです。また出産間近の山中こいそ先生が、おやさまへ挨拶に伺うと「今度はためしやから、お産しておぢばへ帰る時は、大豆越(こいそ先生の実家)へもどこへも、道寄りせずに、ここへ直ぐ来るのや。ここがほんとの親里やで。」とお聞かせ下されました。それから程なく、こいそさんは午前8時頃急に産気づき、家の人達が誰もおられず、どうしようもなかつたので自分の前掛けを外して下に敷きお産をしました。不思議にもびっくりするような安産で、昼に家の人達が帰って来た頃には、赤ちゃんに産着を着せ寝かせていたそうです。そして出産から2日後に、おやさまのお言葉通りどこにも寄り道せず真つすぐおぢばへ帰らせて頂

きました。

今では想像もつきませんが、出産後2日での時10km以上歩いて帰ってきたそうですが、不思議にも全くいつも通りの状態だったそうです。おやさまは「もう、こいそはん来る時分やなあ。」とお待ち下され、着いた時には大変お喜び下され赤ちゃんに名前を付けてくれたそうです。

只今、先人の話をいくつか挙げさせて頂きましたが、皆さんがおぢばがえりをされるのをおやさまは、今か今かと待つておられます。1月26日の当日におぢばがえりをされる方は年祭の日には喜び一杯の心で、おやさまに三年間のお礼をさせて頂きましょう。

また北海道の方は特に、気候など時期の関係上おぢばがえりは難しいという方もおられるかもしれません。真柱様は昨年の秋季大祭ご挨拶にて「年祭の当日、おぢばへ帰ってきてても、来なくても、その日をうれいし心で迎えることができるように」とのお言葉を下さいました。

1月26日におぢばへ帰らせ

が、どうしてもお帰り頂けない方も大勢おられると思ひますので、本年の大教会活動目標は「全ようぼくおぢばがえり」と掲げさせて頂き、網走に繋がるようぼく80名の皆様におぢばがえりをして頂くことと心定めをさせて頂きました。年祭の日はどうしてもおぢばへお帰り頂けない方は、1月26日より12月31日の間におぢばがえりをさせて頂き、甘露台にお礼参拝し御本部の教祖殿へ足を運び、おやさまに改めて御礼をさせて頂き、詰所へ戻りようぼく帰参台帳に記帳させて頂きましょう。

帰参台帳への記帳は、ようぼく一人につき1回限りになります。年祭の年、ようぼくの皆さんだけではなく、別席運びの中の方は一日も早くようぼくになり、何度もおぢばがえりをさせて頂きましょう。皆さんがおぢばがえりをさせて頂くと必ずおやさまは喜び下さいます。皆さんがおぢばがえりをする度に必ずおやさまはご安心下さいます。

本年は網走大教会が一丸となりおぢばがえりに力を入れてさせて頂きましょう。



### 年頭会議

立教189年年頭会議が、1月12・13日の両日にわたり大教会で、教会長夫妻・前教会長夫妻・直轄布教所長等を対象に開催された。

12日の春季大祭を勤め終えた午後、参拝場にて行われた連絡会に引き続き、大教会長は開会の挨拶を行い、三年千日を振り返り活動方針「教祖のひながたを目標に 全教会心定め達成」「仕上げの年諭達の実動十万件」の成果を報告、三年間のねぎらいと御

●直轄 大畑 雅敬  
 受講前は、各プログラムの意味、根本的なことをほとんど理解できていませんでしたが、受講したことで、少しづつではありますが、身に付い

### トピックス

●直轄 瀨川 陽一  
 二回目の受講でしたが、更にパワーアップしており、もう一回受けたくくなりました。

### ●直轄 武田 典子

改めて教理を丁寧に学ばせて頂き、本当に先生方の努力をしみじみと感じました。初心者の方には難しいのではないかと思います。この講義は全ての信者さんに受けて頂きたいと思っています。



### 真柱様お誕生日

1月16日真柱様は満67歳のお誕生日を迎えられた。大教会では、朝づとめのてをどりまなび終了後、別館二階対面室に皆で移動し、大教会長夫人が真柱様にお祝いの言葉を申し上げた。

また夕づとめ終了後、参拝場に少年会を代表し網走隊隊長・瀨川泰市さんが真柱様にお祝いの言葉を申し上げた。

### ●直轄 山崎 邦夫

今回は元々付き添いの予定のために来たのですが、本人が急に身上となり、辞めることも考えましたが、神様がお連れ下さったと、本当に心から思いました。

### ●御料 細田 三枝子

素晴らしい講義を受けさせて頂き、とても感謝しています。わかっていると思っていなかったことが、何もわかっていなかったことに気付かされました。

### 教祖140年祭

つとめの実行と人々の成人を促して、教祖が定命を25年縮めて現身を隠された明治20年陰曆正月26日から数えて140年。教祖140年祭は、立教189年1月26日、中山大亮様祭主のもと、教会本部にて厳かに執り行われた。

12万人程の参拝者が、おどばを埋め尽くし、教祖に三年千日の成人の歩みを御報告した。教祖に、ご安心頂きお喜びいただきたいと願う全教の真実が親里に集結した。

数日前から、強烈な寒波が日本列島に襲来する中、160名を超える網走大教会につながる道の子一同が、この日を新たな門出として心を引き締め、三年千日に培ったおたすけの実践を台としその上に一手一つにさらなるおたすけの実践をもって前進していくことを誓った。

### 舞台劇上映会

年祭前日の25日18時半より詰所2F大広間において、舞台劇「扉ひらいて」の上映会



が行われた。上映に先立ち、教祖伝第十章「扉ひらいて」を聞き、当時のおどばの人々と教祖のおさしづのやり取りを、時系列に沿っておさらいした。その後敷島大教会の劇団による、教祖伝第十章を基に制作された舞台劇を鑑賞した。

作中では、お屋敷に詰めた人々が官憲の弾圧と教祖のおさしづとの狭間で、苦悩し葛藤する様子が白熱の演技で描かれた。教祖がお隠れになった絶望感の後、子供かわいからこそ「扉ひらいて」世界たすけに出来るのだという親心を知り、勇み立ち上がったいく当時の人々の姿がリアルに感じられた。

参加者は、翌日の年祭の参



### 親睦会

年祭当日の夕方には、詰所食堂で懇親会が開催された。始めに大教会長様より、人の心定め達成が発表され、役員をはじめ教会長、ようぼく信者の皆さんそれぞれの立場での年祭活動を労われた。

乾杯の後は、大教会やお道に関する趣向を凝らしたクイズで盛り上がり、勝ち抜いた正解者には、詰所無料宿泊券やお米券などが贈呈された。年祭をおどばで無事に迎えて、皆一様に、嬉しく楽しい気持ち一杯の宴となった。



動 静

●年祭
▼直轄所属・米田昌子の霊様
1年祭が1月24日、釧路市の
自宅にて瀬川定自・直轄世話
人祭主のもと執行された。

1月人のご守護

○初席者 (2名)
東 網 新 田 愛

○中席者 (6名)
オホツク 山 下 ひなの

○別席傍聴願 (1名)
誠 央 伊 藤 希 世

○おびや許し願 (1名)
誠 央 橋 本 和 枝 彦

育英会寄付者
三幣健志様 (次女誕生)

大教会1月の動き

- 1日 元旦祭
2日 直轄世話人
3日 会長、おぢばがえり
4日 会長、年頭御あいさ
つ出席
5日 会長、お節会ひのき
しん (7日まで)
6日 役員会会議

7日 縦の伝道日
9日 網走支部例会会場
10日 役員会会議
11日 教祖140年祭網走おた
すけ委員会会議。
育成部部会
12日 春季大祭。役員会会
議。連絡会。年頭会
議 (13日まで)。よ
うき会役員会
15日 会長、上級参拝、関
東、札幌方面直轄信
者宅まわり (20日ま
で)
16日 真柱様お誕生日お祝
い
17日 会長、館山分教会大
祭参拝。網走支部婦
人会例会会場
18日 会長、嶽東大教会参
拝。縦の伝道日
23日 会長、おぢばがえり。
詰所23会
24日 会長、本部神殿奉仕
つとめる
25日 五季御礼。縦の伝道
日
26日 教祖百四十年祭遙拝。

立教189年人のご守護心定め
初席者 46名
ようぼく 19名
修養科修者 12名
教 人 9名
成果 (1月末現在)
2名 0名 0名 0名

27日 結城和広役員、本
部神殿奉仕つとめる
28日 年祭活動お礼つとめ
29日 教會長年祭活動反省
会。藤山重善役員、
本部神殿奉仕つとめ
30日 教祖百四十年祭教会
長御招宴 (3名)
みそか会

仕上げの年
諭達の実動十万件
実動件数 293,685件
(立教188年1月12日~立教189年1月11日)

立教189(令和8)年人のご守護成果表 (1月末現在)
Table with columns for church names, membership status (初席, 中席, ようぼく, 修卒), and cumulative counts (当月, 累計).

春季大祭 1/12(月)
Table with columns for participants (神職講話, 賛者, 指図方, 扨者, 祭主) and roles (祭員, 前, 後).